

アサヒカメラ

3

PHOTOGRAPHY JOURNAL
ASAHI CAMERA
MARCH 1994

特別増大号

栗原達男

田中長徳

百瀬俊哉

ZIGEN

池尻清

柳沢信

渡辺兼人

白汚零

高木伸俊

秋山庄太郎 [艶麗六花] 交換レンズの楽しみ・特集
キヤノンEOS Kiss・ニューフェース診断室





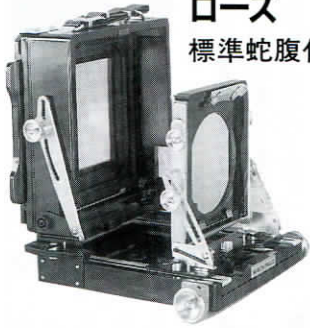
Optical Moments
光の散歩

Yamanoue Takahito
山上高人
72

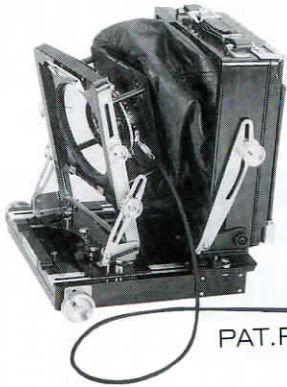


蛇腹が脱げる

WISTAFIELD 45SW ローズ 標準蛇腹付



90ミリ～120ミリ程度の広角の場合袋蛇腹だけで、あおり自在。65ミリ、75ミリの場合広角沈みボード併用であおり自在。袋蛇腹



PAT.P

延長蛇腹



PAT.P

望遠接写ベンチを使えば
600ミリ～800ミリ望遠撮影がOK。

株式会社 ウイスタ

〒174 東京都板橋区常盤台4-6-14
カタログ請求は送料切手¥400

GALLERY

佐々木崑のマクロ寸評

作品は70～753に掲載

繁華大都会日記

鄭 曉群 ●東京都・大学研究生

【撮影メモ】おだやかな晴天の日、カメラを持って街でぶらぶらするのは大好きです。東京は世界有数の繁華大都会であり、中国の都会と違う奇妙なおもしろい存在がたくさんあります。

【評】作者は中国出身の留学生というところだが、日本は経済的に豊かだと思つて来日したのかもしれない。しかしなれてくると、そこは整然とした都会であると同時に雑然とした街でもある、ということがわかり、日本への見方が変わってきたのではないだろうか。その日本の不思議な印象をうまくつかんで写真にしている。大変おもしろい作品だった。

都市 蒼

後藤圭一 ●尼崎市・65歳・公認会計士

【撮影メモ】朝早く私は都市の中にいた。人も車も見あたらないその都市は、深い海の底に沈んでいるかのようだった。恐

怖から逃れるために、私は通りかかった船に乗り込んで、遠くの赫色に照り輝く都市をめざすことにした。しかし、一夜が明けた時、私は再び「都市 蒼」の底で朝を迎えることになるのではなからうか。

【評】大都会は24時間人がウロウロし、車が走り続けている。そのなかのほんの一瞬の隙間に人がまったく見えなく作者はその一瞬をうまくとらえた。生物の存在しないコンクリートジャングルだ。露出や、ビルに当たった日の感じがいい。

光の散歩

山上高人 ●倉敷市・44歳・医師

【撮影メモ】今のところ、これといった写真のテーマの見つかる様子もありません。休みの日になると、何も考えずカメラ片手に出かけるばかりです。天候も時間も相手ませ。偶然出合うその時の光のイメージを呼び起こします。

【評】作者は非常に自然体で撮っている。これは撮ろうと思つて、なかなか撮れる

ものではない。考えて撮影した写真ではなく、出合いの瞬間にシャッターを押している。考え始めるとかえて平平凡凡な作品になる。今のままで撮影し続けてほしい。

飛驒の鉾山

中田聡一郎 ●東京都・28歳・写真家

【撮影メモ】精錬所に見える谷へ行ったら、東洋一の鉾山として名を馳せた神岡鉾山にかつての姿を見ることは、もはやない。私は、人間の営為がふたたび自然に返る姿を記録したいと思った。

【評】鉾山が縮小・閉鎖になったその感じ、色あせたような効果がでている。色調はシアンが強く、イエローが少ないことで温かみがなくてさびれた感じになっている。うらさびしいところが魅力の作品である。

ペルソナの悦楽

前田章次 ●神戸市・68歳・写真家

【撮影メモ】ベネチアは仮面祭の真っ最

中。人間が仮面をかぶると無表情に化石化するが、私の目には喜怒哀楽が伝わってくる。清らかな聖女がみだらな女になり、猥雑な姿が見えかくれる。仮面が化面に変身したのだ。この写真は、ベネチアで感じたものを、私の心のままに映像化したものだ。

【評】運河の向こうの建物も見える場所が良かった。コステュームの色もいい。水面にキラキラと柱が写っていることで画面に変化をもたらしているが、右下のモーターボートがゴンドラであれば雰囲気があった。カメラをもった人は他にたくさんいただろうが、作者はちゃんと撮っている。プリントの調子もよかった。

- ◆ 《今月の佳作》▽仁田原豊（秋田）▼小城秀夫（綾瀬）▼太田威重（東京）▼山本和邦（東京）▼元井寛（天理）▼下出満（兵庫）▼トラン・ジョン（青屋）▼川角雅幸（松江）▼大内正文（岡山）▼朱淵城（台湾）▼Noro Tadashi